

## 第3号

○令和7年度  
第3回理事研修会



発行  
北海道小学校長会  
札幌市中央区北5条西6丁目  
第二北海道通信ビル306号室  
TEL 011-218-9850  
FAX 011-218-9851  
e-mail: h.s.k-32@dousho.jp  
https://www.dousho.jp/

### 令和7年度 第3回理事研修会

☆令和7年9月11日(木) 12時30分より

☆会場: 中標津町総合文化会館「しるべつと」(1Fコミュニティホール)

#### 【報告事項】

- 教育情報について
- 第2回専門部研修会開催について
- 会務・各部の活動について
- 道教委との意見交換会・各課懇談会について
- 第68回道小教育研究根室大会について
- その他

#### 【道教委行政説明】

- 幼児期及び架け橋期の教育の充実について
- 特別支援学級における適切な教育課程の編成について
- 熱中症対策、体力向上、健康教育について
- 学校における危機管理・防災教育の推進について
- メタバースによる不登校支援について
- ラーケーションについて

#### 【協議事項】

- 各教育局・道教委への要望活動について
- その他

#### 【連絡】

- 第4回正副会長研修会・理事研修会について
- 第4回分科会運営者研修会について
- その他

### 1 開会の言葉 …………… 玉腰 武 副会長

地震による津波、大雨による浸水、クマ出没等で被害に遭われた方々へ心からお見舞い申し上げます。併せて最前線で子どもたちの安心安全な教育活動を継続するためにご尽力くださっている全道の校長に感謝の言葉を申し上げます。



9月に入り、秋の訪れを感じさせるような気温の日が続いているが、7月のような酷暑とはならず教育活動を推進することができ、少しだけほっとしている。いよいよ明日から、根室地区校長会の主管で「第68回北海道小学校長会教育研究根室大会」が開催される。本日の研修会では、大会関係の内容のほか、8月に開催された道教委との意見交換会・各課懇談会についての報告や、各教育局・道教委への要望活動について協議する。いずれも今年度の道小活動にとって根幹をなす重要な内容である。審議をよろしくお願い申し上げます。

### 2 会長挨拶 …………… 田邊 芳明 会長

本日は、中標津町に参集いただき感謝申し上げます。いよいよ根室大会が明日に迫ってきた。理事には、各分科会の充実に向けて、分科会運営者研修会への参加など、多大なるご支援をいただいたこと



に心より感謝申し上げる。明日からの二日間の大会運営へのお力添えをよろしくお願いしたい。

それでは会長資料を基に、第2回理事研修会以降の全連小や道小の活動等について説明する。

まず、7月9日に開催された全連小小学校長会長連絡協議会の内容についてである。7～8ページは全連小速報で、松原会長の挨拶が掲載されている。松原会長には、明日の道小根室大会で「当面の諸課題」という講話をしていただく。松原会長は、「学校の未来を描く」「夢を語り、未来の教育を描く」ことが大切だというお話をこれまでも全連小の会議などで何度もされており、明日の話の中でも出てくると思うので、ここで紹介しておく。また、松原会長は中教審特別部会等の委員をされているので、中教審での情報や参加して思うことなど、資料を基にたっぷりとお話ししていただけるようである。さらに、ご自身の学校経営なども紹介していただけるようなので期待したい。

8ページは、全国47都道府県の校長会長が集まった小学校長会長連絡協議会の中で、私から来年度の北海道大会の概要を説明してきたことである。いろいろな都府県の校長から、来年の北海道大会を楽しみにしているという声をたくさんいただくことができた。

9ページからは、8月4日、5日に、来年度の全連小研究協議会北海道大会に関わる前年度表敬訪問の内容を示したものである。全連小から、松原会長、高瀬調査研究部長、小泉事務局長が札幌にいらしたので、私たち道小役員3人と札幌市小学校長会の役員3人が一緒に会場視察や表敬訪問等を行った。来

年、全国大会の会場となる札幌コンベンションセンター、分科会場のホテルエミシア、プリンスホテル国際館パミールの下見、実際に地下鉄に乗りしての参加者の動線確認、北海道の濱坂副知事、道教委の川端学校教育監、札幌市教委の山根教育長、廣川教育次長への挨拶と来年度の大会への来賓参加依頼をさせていただいた。また、道小事務所において、大会準備の進捗状況の説明や今後に向けた課題等を全連小役員とともに確認することができた。

10 ページは、8月6日に道教委の幹部と教育関係有識者による北海道教育推進会議が行われた様子を伝える道通記事である。この会議には私も参加し、「道教委が取り組もうとしているそれぞれの施策を、学校現場で実際に行っていくためには、教職員が足りない」と施策が『絵に描いた餅』になってしまう。だからこそ人材確保と人材育成は、教育委員会と学校現場がこれまで以上に連携して取り組まなければならない。」ということを伝えた。他にも、働き方改革を進めていくためにも学校業務支援員（スクールサポートスタッフ）を学校規模に寄らず、希望する学校へ全校配置してほしいことや、働き方改革に関する保護者や地域に向けた積極的な情報発信なども要望した。これから積極的に道教委等に私たちの声を届けていきたい。

11 ページの道通の記事は、同じ8月6日の午後に道小、道中、道公教の役員と道教委の幹部が意見交換会・各課懇談会を行った時の内容となる。後ほど丸岡事務局次長、小嶋副会長、玉腰副会長、澤田副会長から報告していただく。

最後に危機管理の手引きに関する話題をお伝えする。12 ページにある夏休み中に起こったカムチャツカ津波警報に関する北海道新聞の記事である。本日の理事研修会に参加されている方の中にも、7月30日の津波警報により、対応をされた校長や避難所開設をされた校長がいる。今回の事案で問題になっているのは、道教委の危機管理の手引きや各学校の危機管理マニュアルに、長期休業中における対応が記されていないことが、想定外の出来事となったことで、地区や学校ごとの対応に差が生じたことが挙げられている。記事には、「道教委は授業中など児童生徒が学校にいる時間帯だけを想定した手引きを問題視」と書かれてある。そうであれば、今後、道教委の「危機管理の手引き」が見直されることになるかと思うので注目していく必要があるが、夏休み中にその「危機管理の手引き」が別の件で見直されている。それが、13 ページからの全道各地で発生しているヒグマの出没への対応に関する「危機管理の手引き」の追録と通知である。この手引きの追録を基に、必要に応じて各学校の危機管理マニュアルを改定することになるかと思う。手引きの追録がすでに道教委から発出されたことにより、今後、それぞれの地区でヒグマが出没した際には、先ほどの津波警報のような「想定外」という扱いにはならず、各学校のマニュアルで対応することになるため、各地区でヒグマが出没した際のマニュアルがしっかりと整備されているかの確認等をよろしくお願いする。

15 ページは、今年4月に札幌市教委から出されている「ヒグマ出没時の初期対応について」というマニュアルである。すでに、札幌市内でも何度もヒグマの出没が目撃されていることから、分かりやすいマニュアルが用意されている。今後マニュアル改定を行う際には、参考にできるのではないかとと思う。本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 3 議長選出

……小田 英人 副会長

会則により副会長の輪番から第1ブロック 小田 英人 副会長を議長に選出。



### 4 報告

#### (1) 教育情報について …… 稲上 敏男 事務局長

先日、送付した8月号の記事では、全国学力・学習状況調査の結果を受けて、読書が好きな子ほど好成績だということ、しかし、読書が好きな子は減っていること、家庭でのスマホの利用時間が長くなり家庭での学習時間が減っていることなどが取り上げられていた。そして、東北大の大森名誉教授の「生活時間全体を考えた視点が必要で、スマホ漬けの日常に加えて学校でも端末を使い続ける事に対して問題意識をもたなければならない。」という話も紹介されていた。デジタル環境への懸念の声もある中、9月第1週の記事では、中教審でのデジタル教科書の話があったので紹介する。



最初は「教科書に載るQRコードのリンク先も国の検定対象に 数も絞る方針」という朝日新聞の記事である。文部科学省は、教科書に付いたQRコードから見られるデジタルコンテンツを教科書の一部とみなし、国の検定の対象とする方針を固めた。QRコードから見られるコンテンツは教科書とは違い、国のチェックがない「教材」という位置付け。近年、教科書各社が教科書の魅力を上げるために力を入れてきた。ただ、内容の質の保証が不十分という指摘があった。文科省は、QRコードから見られるコンテンツは教科書の内容を分かりやすく説明する動画などに限る想定。「発展的な内容などのコンテンツは、教科書に付かない形なら、従来どおり教材として使える方向」としている。一方、デジタル教科書は、今は紙の教科書をそのまま電子化したものを指し「教科書代替教材」という位置付け。これを正式な教科書とし、検定や無償配布の対象とする方針となっている。中身も、図形を動かしたり、音声読み上げができたりする、デジタルの特性をより生かす方向で議論されている。また、紙とデジタルの双方のよさを生かせるよう、適切に組み合わせた使用を前提とする。一部が紙、一部がデジタルの教

科書も認める方向。紙とデジタルの適切な比重は、教科の特性や年齢などによって違いがあるとみられているため、今後、国が一定の方針を出す予定である。

続いて、「教科の授業コマ数、小中学校の判断で減らしてOK 次の学習指導要領」の朝日新聞の記事である。中教審の特別部会がまとめた方向性は、学校や子どもの多様化に対応できる「柔軟な教育課程」を促すことや、デジタル社会に合わせた教育を拡充することが柱。柔軟化は、子どもや学校の特性や多様化に合わせるねらいがある。例えば、2023年度の不登校の小中学生は約34万6千人、日本語指導が必要な小中高生は約6万9千人。柔軟化の具体策としては、国が示す全体の授業時数（コマ数）は保ちつつ、教科ごとのコマ数を各校の判断で減らせる仕組みが挙げられた。それによって生み出した時間は、各校の課題に対応した時間に充てる想定。

次のページでは、柔軟化でどう変わるかを説明している。国は、小4から中3の標準時数を1,015コマと示しているが、この標準時数の中で、教科ごとのコマ数を各校の判断で変えやすくする方向性が今回示された。ある教科を減らして生み出した時間は、各校の裁量で別のことに使える。具体的な使い道は、①他の教科に上乘せ、②教科の新設、③教科に縛られない裁量的な時間としている。③の裁量的な時間は、探究活動、個々の子どもに応じた学び、授業改善につながる教員の研究・研修などが想定されている。苦手分野の学び直しや、関心が高いテーマの深い学びなどにつながる。コマ数の生み出し方として、ある研究校の小学校では、1コマ45分を40分に短くし、年間127コマを生み出した。同様の記事が「多様な子供 対応強化 次期指導要領枠組み 画一的指導に危機感」という読売新聞の記事にも掲載されている。こちらでは、「調整授業時数制度」と記載されていて、イメージも出ているので参考にしてみたい。

最後は、「日本版サプライティーチャー 文科省がモデル事業計画 8年度 入職支援の事例展開」の道通の記事である。文科省は8年度から日本版「サプライティーチャー」制度の導入について検討を開始する。経験豊富な退職教員を非常勤講師として登用し、研修や育児などで一時的に不在になる教員の穴をフォローする仕組み。サプライティーチャーはイギリスで導入されている制度で、常勤教員の休暇や長期不在時に一時的な雇用契約を結び、職務を遂行する契約教員を指す。日本では再任用教員として教壇に戻る退職教員が少ないほか、休暇を取りづらい現状があり、教職のやりがい・魅力を発信する上での課題になっている。このため国が主導して「多様な優れた人材の教師入職総合支援事業」を計画し、退職した教員らが非常勤講師となって、地域内の学校を兼務する形で一時的な教師の不在をフォローする。

さらに、教師人材をシェアする仕組みとなる「トラベルティーチャー」の開発も進める。臨時講師のなり手確保のため、地方移住策と組み合わせて教師

になる人材を発掘するもので、「関係人口の創出や移住促進による地方の活性化を図りながら人材の供給を図る」としている。これらは、もしかしたら私たちの退職後の働き方の選択肢の一つとなるかもしれない。

9月の第1週の記事からの紹介であったが、文科省の様々な新たな取組や、中教審の次期学習指導要領改訂に向けた動き、また、愛知県みよし市では、全小・中学校の校舎内に盗撮防止用のカメラを設置することを決めたという記事もあるなど、目が離せない内容が多くある。今後の情報にも注目していきたい。

## (2) 第2回専門部会開催

部会ごとに業務内容を確認した。

## (3) 会務・各部の活動について

### ①会務報告 ……………丸岡 哲也 事務局次長

7月4日（金）の第2回理事研修会以降、本日までの会務を掲載している。今年度は、計画どおり会議が行われている。各地区の地教研は、7月30日（水）に宗谷地区を予定していたが津波注意報対応のため中止となり、7月31日（木）の上川地区から順次各地で開催されている。また、8月6日（水）に道教委との意見交換会・各課懇談会が開催された。道小教育研究根室大会に向けては、7月の第2回、8月の第3回の分科会運営者研修会において詳細な打合せを行い、本日この理事研修会の後、第4回分科会運営者研修会を行い、明日の分科会を迎える。



### ②各部の活動報告

#### 【経営部】 …………… 矢藤 典彦 経営部長

今回、経営部からは、第2回理事研修会以降の活動の経過について報告する。

今年度の「地区別教育経営研究会」については、7月29日の旭川市中学校地区を皮切りに、本日までのところ、全19地区のうち7地区で実施されている。当初は、8地区の予定であったが、宗谷地区がカムチャツカ沖地震の津波への対処のため中止となった。今年度も、多くの地区が会同して行い、改めて顔を合わせて研修することのよさに触れる言葉が聞かれている。この後、9月24日に予定している留萌地区から11地区が予定されており、11月7日の空知地区で終了となる。実施した地区からは、教育の今日的な課題を中心に、たいへん有意義な研究会となったという報告を受けている。この教育経営研究会のまとめは、12月から道小ホームページに掲載する予定である。



次に、「学校経営の資料」については、道中担当で編集作業を行い、7月初旬に各地区に発送した。最新の資料も掲載しているので、地区別教育経営研究会での活用はもちろん、日々の学校経営の資料として、是非活用いただきたい。この資料については、より活用しやすくなるよう毎年見直しを行い、内容の充実を図っている。

最後に「法制研究集録第56集」については、データ化してホームページに掲載する予定である。来年2月の完成に向け、現在、道小経営部が中心となって編集作業を進めている。

#### 【研修部】 ..... 國行 宏昭 研修部長

研修部の活動について、4点報告する。

1点目は、第68回北海道小学校長会教育研究根室大会についてである。いよいよ明日から研究大会を開催する。これまで準備をしてくださった根室大会実行委員会に感謝申し上げる。明日からの二日間は、実行委員会が準備した大会を、私たちがしっかりと支え、北海道の校長が会場で意見を交わし合うことのよさを感じ、大いに学びを深めるような大会にしていきたい。皆様には大会役員並びに分科会における運営責任者や趣旨説明者等として協力をお願い申し上げます。今年度の確かな成果については、12月に発行する研究集録「小学校教育62号」にてお伝えする。

2点目は、全連小福岡大会についてである。全連小福岡大会は、10月16日(木)～17日(金)に、全国から2,200人ほどの校長が会合同し開催される。全体会場は福岡サンパレス、分科会場は福岡サンパレスと福岡国際会議場の2会場となる。北海道からは第4分科会で、渡島地区森町立さわら小学校 中西 章二 校長、また、第12分科会で、宗谷地区猿払村立鬼志別小学校 高橋 正一 校長が発表される。

3点目は、全連小各種アンケート調査についてである。今年度もWeb調査となり、皆様の協力により無事回答が終了し、調査回答完了報告が届いた。今後、全連小の各種委員会において分析し、調査結果は文部科学省との文教施策に関する要望等に活用される。調査結果の分析については、全連小より3月に「令和7年度 研究紀要」の冊子となって届く予定である。

4点目は、道小ホームページに掲載される「各地区の研究活動」の原稿執筆依頼についてである。原稿執筆依頼を10月に行う予定である。この点を念頭におき、各地区の研究推進をお願いしたい。

#### 【対策部】 ..... 野中 利晃 対策部長

第2回理事研修会以降の業務について3点報告する。

1点目は、6月23日(月)に行われた全道会長研修会の記録についてである。記録は、9月末発行予

定の「道小情報特別号」の中に掲載される。「教育課程に関わること」「人材育成に関わること」「時代に即応する教育課題に関わること」の三つの柱から協議を行い、各地区の取組状況や成果・課題について情報が共有された。

2点目は、役職定年校長の動向に係るアンケート調査の集計と分析についてである。これも全道会長研修会の記録と同様に、9月末発行予定の道小情報特別号に掲載される。また、8月発行の道通にも掲載されている。

3点目は、広域人事に関する調査の集計と分析についてである。道教委の参考資料としても活用されており、継続してよりよい広域人事の在り方に寄与するところとなっている。7月発行の道通掲載をはじめ、9月末発行の道小情報特別号への掲載と道小ホームページにもアップロードされている。

業務報告は、以上3点である。今後は令和8年度全道会長研修会に向けた共通話題の集約などについて、文書での回答を予定している。

#### 【情報部】 ..... 佐藤 等 情報部長

情報部の進捗状況について報告する。

1点目は、会報「教育北海道」についてである。336号については、全道各地から玉稿をいただき、7月下旬に発刊することができた。337号については、執筆依頼を済ませている。12月12日が提出の締切りとなるので、原稿集約に協力をお願い申し上げます。また337号は、全連小福岡大会で発表される紀要原稿並びに今年度の役職定年等予定会員の紹介を掲載する予定である。

2点目は、道小情報第3号についてである。本日の理事研修会について報告する。そのため、挨拶や各部の読み原稿を集約するので、理事研修会後に情報部幹事に提出いただきたい。今後も、道小情報は電子データによる配信で各地区会員に周知していく。

3点目は、道小情報特別号についてである。現在、最終校正の段階となり、9月末までに発行する予定である。

4点目は、道小情報・道中だよりの号外についてである。号外1の「北海道文教施策・予算策定に関する要望に対する回答」については、まもなく校了する。号外2の「道教委との意見交換会・各課懇談会」については、鋭意編集集中である。

5点目は、道小ホームページの更新状況についてである。更新状況は紙面のとおりで、7月に各地区校長会だよりを掲載している。

6点目は、全連小広報の機関紙についてである。「小学校時報」については、全ての執筆者が決まっている。

最後に、全連小ホームページの「特色ある学校紹



介リンク集」の掲載校の更新についてである。新規に掲載する学校は、これまでに全連小の「小学校時報」や「教育研究シリーズ」「特色ある研究校便覧」に掲載された学校を中心に更新していくので、改めて協力をお願いしたい。

#### (4) 道教委との意見交換会・各課懇談会について

##### 【意見交換会】 …… 丸岡 哲也 事務局次長

道教委との意見交換会について報告する。今年度は道小が主担当となり、道教委と協議・調整の上、関係の皆様のお力をいただきながら準備に当たり、予定どおり8月6日(水)に会合で行うことができた。道教委からは、教育長、教育部長、学校教育監、教育指導監、総務政策局長、学校教育局長、特別支援教育担当局長、ICT教育推進局長、生徒指導・学校安全担当局長、教職員局長の11人が出席した。道小からは、会長、副会長、六役、各部副部長の20人が出席し、道中役員17人、道公教役員8人と共に意見交換した。

この意見交換会は、道教委の主催で行われ、道教委、校長会、教頭会が学校の状況について共有し、意見交換することを目的にしている。今年度は「教育DX」をテーマに、学校教育局長 伊藤 伸一 様の進行により会が進められた。「学校の状況をざっくりばらんに伝えてもらいたい。」という道教委の考えで、教科等における1人1台端末の活用状況、教師の指導力と児童生徒の情報活用能力、校務DXの推進状況について協議を深めることができた。それぞれの地区の現状や課題等について発言いただいた副会長に感謝申し上げる。意見交換会の詳細については、今後発行される道小情報・道中だより号外を参照いただきたい。

次に、各課懇談会について報告する。各課懇談会は道小・道中の主催で、今年度は道小が主担当である。三つの分科会において、「教育環境」「危機管理と生徒指導」「教職員の資質能力の向上」を懇談テーマに行った。開閉会の挨拶、提言、運営・司会・記録に当たられた皆様に心より感謝申し上げる。

分科会の様子については、参加された3人の副会長から順に報告する。来年度は道中が主担当となるので、参加した副会長、部長、理事等からの意見をもとに反省事項を取りまとめ改善を図るなど、道中と連携して計画的に進めていく。

##### 【各課懇談会 第1分科会】…小嶋 範彦 副会長

第1分科会は「教育環境」をテーマに四つの提言があり協議した。道教委からは教育政策課と義務教育課長、教職員課と教職員育成課の課長補佐、生徒指導・学校安全課の係長と主査が出席された。

はじめに「教頭の業務を支援するマネジメント支援員」と「へき地・複式教育」についての提言が行われた。協議内容は「加配への要望と現状・課題」「加配における事業継続の検証状況



と今後の課題」「教頭業務を支援するマネジメント支援員の活用・配置状況」「超過勤務における現状と課題」「人材確保に向けての現状と課題」についてである。

次に「道独自による中学校35人学級」と「生徒指導担当教師加配」について提言された。協議内容は「不登校支援に対する現状と課題」「不登校対策における体制の整備と人材確保」「人員配置における課題と柔軟な対応」「草の根教育実習など人材育成に対する要望」などについてである。印象的だったのは、加配により校内学びの支援センターが開設された学校がいくつもあり、退職校長が加配として力を発揮し、不登校児童生徒が減少したことで担任の保護者や児童生徒対応が軽減されているという報告である。

道教委からは「学校規模に関わらず人手が不足していることは、今日の説明からも十分理解している。国の補助事業や加配を活用しているものは、国の動向を見て考えていきたい。事業を継続・拡大していくには実績や成果の検証が必要であるため協力いただきたい。」という旨の回答があった。

##### 【各課懇談会 第2分科会】… 玉腰 武 副会長

第2分科会は「危機管理と生徒指導」について、四つのテーマで提言があり協議した。

一つ目は「いじめ対応、自殺予防」についてである。道中経営部長から「いじめ対応ガイドブック・支援ツール コンパス」「ほっと」等を活用した管内の実践について紹介があった。

二つ目は「不登校対応」についてである。道中経営部幹事から「校内教育支援センターにおける登校支援」「児童生徒支援加配やスクールカウンセラーの配置拡充」等について、管内状況の説明があった。

三つ目は「学校の安全と危機管理」についてである。道小経営部長から「管内コンプライアンス会議を受けての不審者対応」「市内におけるカスハラ対応」等について、管内における動向の説明があった。

四つ目は「保護者対応とスクールロイヤーの活用」についてである。道公教副会長から「アンケート結果から見える保護者対応への負担感」「スクールロイヤー活用の成果と課題」等について、市の状況の説明があった。

全日程を通じて、道教委の幹部の皆様も参加いただき、それぞれの現状や今後の対策について丁寧な説明があった。提言はもちろんのこと、全道各地から参加された方々からも、本分科会テーマ「危機管理と生徒指導」についての諸問題の解決に向けて、たくさんの要望や意見が出された。

##### 【各課懇談会 第3分科会】… 澤田 真次 副会長

第3分科会では、「教職員の資質能力の向上」をテーマに四つの提言があった。

1点目は、特別支援教育コーディネーターの育成についてである。現状、専門性の高いコーディネー

ターの育成が課題となっており、専任化等について提言があった。道教委は、専任化の必要性を高く認識しており、基礎定数化とともに特別支援学校のセンター的機能強化を国に要望しているとのことであった。学校現場に対しては、特別ではない日常的な実践を目標に、積極的な研修参加と組織作りをお願いしたいとのことであった。交流では、研修機会の更なる充実や校内体制の整備、免許取得状況等が話題となった。



2点目は、ICTを活用した教育DXの推進についてである。特に、生成AIのリテラシー向上に向けた研修体制の拡充と、「やめることリスト」の推進状況について提言があった。道教委は、生成AI利活用プロジェクトを立ち上げ、実践事例の共有を進めているとのことであった。また、学校事務のデジタル化を推進し、校務DXポータルサイトで情報発信を強化していく方針が示された。

3点目は、新たな教師の学びの姿に関する提言である。地域連携研修の好事例や「Plant」の取扱い改善について情報提供を求めた。道教委からは、ICT活用や特別支援学校と高校の連携事例などが紹介された。「Plant」については、国のシステムであるため、ヘルプデスクを通じて対応することになるとの見解であった。

4点目は、教職員のモラル向上と服務規律の保持についてである。働き方改革の加速や若手教員の育成、中堅・管理職の孤立防止を進める提言とともに、好事例の紹介を求めた。道教委は、働き方改革の推進と若手教員の制度理解のための研修の充実を重要な視点と捉えている。事例として少人数でのグループワークや、不祥事防止委員会を設置し全教職員でコンプライアンス意識を高める取組が紹介された。このことに関連して、教師間のコミュニケーションや相談機会の確保、負の自己開示ができる職場環境づくりの重要性などが交流された。

## (5) 第68回道小教育研究根室大会について

…………… 松本 昌也 研修部副部長

第68回道小教育研究根室大会は根室大会実行委員会のご尽力の下、この後の第4回分科会運営者研修会を開催するところまできた。これまで、理事には、研究提言の趣旨説明者、または運営責任者として、研究発表の内容や大会要項の原稿等について、多くのご指導をいただいた。



また、分科会の充実のため、研究発表者や司会者と連絡を取りながら、読み上げ原稿の作成等にもお力添えをいただき感謝申し上げます。

私から3点報告する。

1点目は、明日からの根室大会の式次第についてである。開会式、閉会式の流れのほか、赤い文字で細かい時間帯等を記載している。挨拶や説明等をい

ただ副会長・理事は、移動時間も含めて、この時間内に収めていただきたい。

大会1日目は、開会式の後、全連小の松原会長による当面の諸課題、道小研修部長による大会主題・研究課題の趣旨説明と続く。そして、午後からは分科会が行われる。分科会場で昼食をとり、分科会の流れや使用物品等の最終点検をお願いする。分科会開始の10分ほど前から、道小担当幹事がグループ討議の司会者・記録者との打合せを行う。グループ討議の司会者・記録者には、資料を事前に送付し、グループ討議、全体協議の進行要領について共有している。分科会での協議は、16時30分までとなる。

「分科会の充実こそが最大のおもてなし」の理念の下、丁寧に準備を進めてきた。参会された校長が、「互いの実践等を交流し、学校経営のヒントや活力をもらった」と感じるような分科会を目指している。

大会2日目は、道小研修部長による分科会協議報告を行い、株式会社はなまる代表取締役会長 清水鉄志様による記念講演と続き、閉会式の終了時刻を12時としている。

2点目は、座席についてである。開閉会式時のステージ上の座席は、道小役員、大会実行委員長、道小研修部長の座席となる。全体会での座席では、理事研修会参加者は、1列目から3列目になるので座席番号を確認いただきたい。

3点目は、分科会巡回計画についてである。大会実行委員会が分科会巡回のタクシーを手配し、A～Cの三つのグループに分かれて分科会を巡回する。案内については、Aグループは根本実行委員長、Bグループは植島副実行委員長と増田根室地区校長会副会長、Cグループは岡部副実行委員長と蝦名根室地区校長会事務局次長が行う。道路状況にも左右されるが、できるだけ多くの分科会の様子を見させていただく。

## 原 健一 研究指名理事

「地球が丸く見える町、中標津町」にお越しいただき感謝申し上げます。大会の開催に当たり、道小役員、事務局、事務所の皆様をはじめ、各地区校長会の皆様から多くのご支援をいただいたことに心より感謝申し上げます。「笑顔のために、つながり、学び、挑戦する」趣旨の下、空知・岩見沢大会の成果を受け継ぎ、次年度の北海道大会につなげていく大会にしたい。私からは報告・確認事項の概要を3点申し上げます。



1点目は、大会参加者数である。9月10日時点で468人が参加する。なお、宿泊については、中標津町、標津町以外に泊まる方も多数いる。遠くからお越しいただくことにとっても心苦しい思いだか、交通安全には留意し参加いただきたい。

2点目は、分科会についてである。本研究大会は13分科会で「分科会の充実こそが最大のおもてなし」の理念を踏まえ、協議はこれまで活用してきた「ア

ナライズカード」に加え、意見集約アプリ「Slido」を活用し、参加者の考えを可視化することにもチャレンジした。意見集約アプリ「Slido」をスムーズに使えるようにするためにパソコン及びWi-fi環境を中央コンピュータサービスの技術職員によるサポートを準備している。本日の分科会ごとの打合せ会については、十分な打合せ時間を確保するため、全ての分科会を「しるべつと」にて実施する。各分科会場のパソコン環境は同じ機材を使用するので、パソコン環境の確認については、時間帯をローテーション形式で設定しているので、順次確認をお願いする。

3点目は、各分科会場への移動である。「大会主題・研究課題・趣旨説明」終了後、各分科会場へは10分の休憩をはさみ、分科会ごとに移動する。トイレ等は、この10分の間をお願いしたい。第6・8・9・10・11・12・13分科会で希望された方はシャトルバスでの移動、第7分科会は徒歩による移動、第1～5分科会は、この会場「しるべつと」内の移動となる。

本研究大会の開催に当たり、全道から、温かい言葉を多数いただいた。こうした声に励まされ、いよいよ明日を迎える。二日間、不便をおかけする点もあろうかと思うが、「笑顔のために、つながり、学び、挑戦する」ことの実現に向けた価値ある時間にしていきたい。

## (6) その他

特になし

## 5 協 議

### (1)各教育局・道教委への要望活動について

…………… 丸岡 哲也 事務局次長

今年度の要望活動としては、「令和7年度北海道文教施策・予算策定に関する要望書」を、5月26日に道小、道中、道公教が連名で北海道教育委員会 中島 俊明 教育長に手交した。この回答は7月中旬に道教委からいただいております、各地区理事には報告済みである。

令和8年度の要望活動については、各地区では今年度の要望書をもとに各教育局へ地区の要望書を作成し提出する取組を行い、既に提出した地区もある。9月1日付けメールにて各地区理事及びへき・複連、道特協各指名理事に依頼・送付した。要望書作成については、資料で示したスケジュールにて取組を進める。70ページ以降の様式にて報告いただきたい。この報告を基に、来年度の要望書作成に向け、道教委並びに国に対する要望事項を取りまとめることとなっている。提出は小学校長会単独の地区も、小・中の校長会が一緒の地区も、事務局次長 丸岡宛に、9月30日(火)までメールで提出いただきたい。なお、この取組は、札幌市の各校長会にはお知らせのみとする。

## (2) その他

特になし

### 6 議長退任…………… 小田 英人 副会長

## 7 連 絡

### (1)第4回正副会長研修会・理事研修会について

### (2)第4回分科会運営者研修会について

## (3) その他

### 8 閉会の言葉 …………… 小嶋 範彦 副会長

道小スローガンの一つである「つながる」という意味では、この理事研修会も大きな役割をもっている。事務局、各専門部と地区理事がつながり、報告、協議したことが道小会員一人一人に伝わるよう、よろしく願い申し上げる。

明日から、いよいよ道小教育研究根室大会が始まる。この大会を通して、道小会員が更につながり、学びを深める機会となり、根室管内の雄大な自然と食の豊かさにも触れ、心を元気にする二日間にしていきたい。

これで、令和7年度北海道小学校長会第3回理事研修会を終了する。